

Q&A

多発リンパ節腫大をともなう
PET 強陽性の肝左葉を占める巨大腫瘍

【問題】

症例：50歳代，男性。

既往歴：特になし。

家族歴：特になし。

現病歴：検診で，肝機能異常を指摘され，近医を受診した。CTで肝腫瘍を認め，診断治療目的に当院を紹介受診した。初診時のCT (Figure 1) およびPET (Figure 2) を示す。

現症：黄疸なし。上腹部に腫瘤を触知，軽い圧痛あり。

血液検査所見：WBC 5660/ μ l, Hgb 14.7g/dl, Plt 26.8×10^4 / μ l, T-Bil 0.8mg/dl, AST 42U/l, ALT 38U/l, CRP 0.11mg/dl, AFP 2.7ng/ml,

CEA 12.0ng/ml, CA19-9 0.6U/ml 未満, HBs 抗原 (-), HCV 抗体 (-)。

腫瘍の生検結果より薬剤を選択し，化学療法 CDDP+CPT-11 を3クール施行した。同時にマイクロスフィアを用いた肝動脈塞栓療法も施行した。

治療開始約3カ月後のCT (Figure 3) およびPET (Figure 4) を示す。

1. 初診時，臨床経過，画像所見から考えられる疾患は何か？
2. 治療経過から考えられる疾患は何か？ 今後の治療方針は？

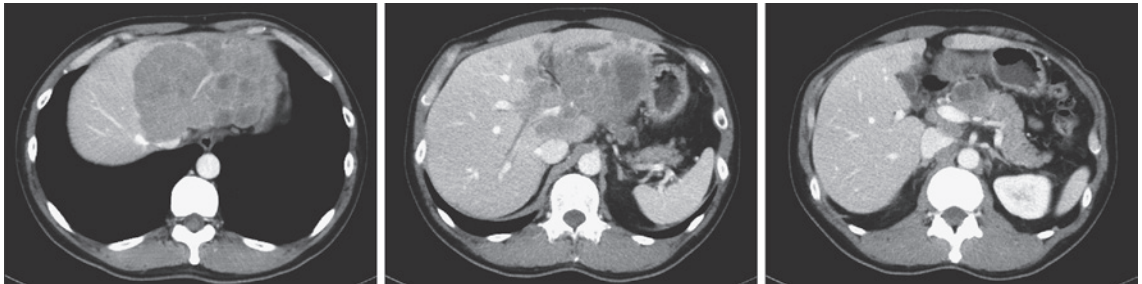


Figure 1. 肝左葉を占める18cm大の腫瘍で，周囲に複数の娘結節を認める。肝門部から膈頭部にかけて複数のリンパ節腫大を認める。

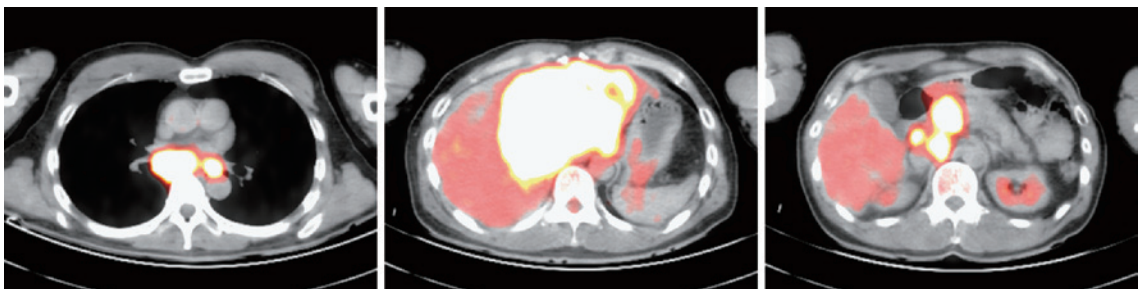


Figure 2. 肝左葉に高度FDG集積をともなう腫瘍を認め，肝門部や膈頭部のリンパ節にも集積を認める。さらに上縦隔・気管分岐下部のリンパ節にも高度の集積を認める。

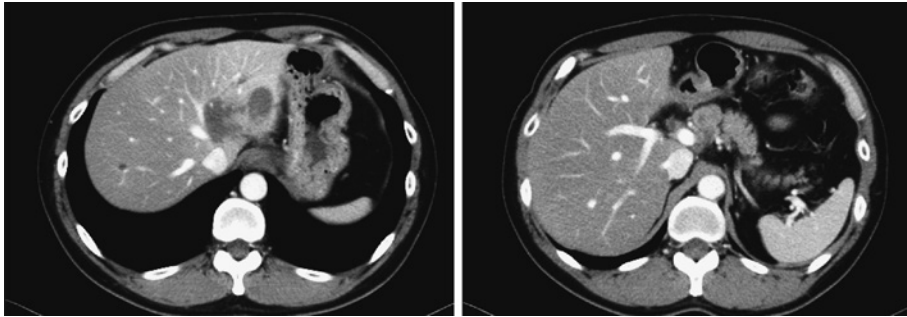


Figure 3. 肝腫瘍は6cm大に縮小し，肝門部リンパ節も2cm大に縮小している．

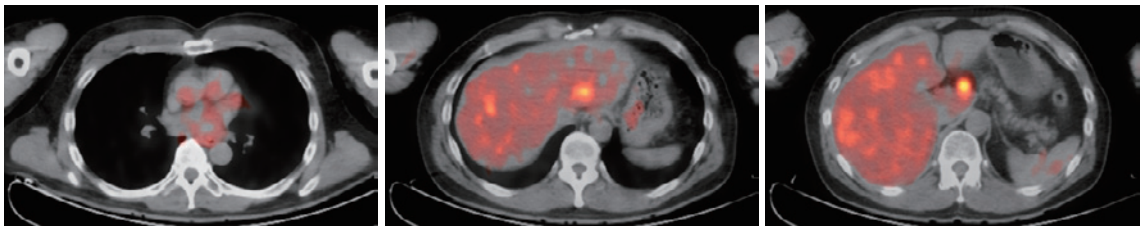


Figure 4. 肝腫瘍は縮小し，FDGの集積も著明に低下している．上縦隔・気管分岐下部のリンパ節の集積も消失しているが，肝門部リンパ節の集積は残存している．